



## ミャンマーにおけるフットボールを通じた開発 -アルビレックス新潟ミャンマーでの活動を通して-

筑波大学院 人間総合科学研究科スポーツ国際開発学共同専攻

修士課程2年長谷川幹

### 【インターンシップ概要】

- 1)インターンシップ期間：2018年9月4日～9月27日（24日間）
- 2)受け入れ先：Albirex Niigata Singapore Pte Ltd (Myanmar Branch)
- 3)役割：マネジメントスタッフ、スクールコーチ
- 4)タイムスケジュール：(火曜日-木曜日 11:00- 21:00, 土曜日-日曜日 / 9:00- 18:00)

### 【国際インターンシップにおける目的】

ミャンマーにおけるフットボールクラブの活動を通してスポーツマネジメントスキルの習得、フットボールクラブの地域貢献活動がミャンマーにどのような影響を与えているのか調査し国際開発におけるスポーツの力を多面的な角度から捉える。また、発展途上国のミャンマーにおいて人々の日常生活やスポーツ文化の実態を把握し、スポーツが国際開発学の分野でどのような意義を持ち、捉えられているか明らかにする。さらに、海外での生活を通して外国語の習得、異文化との交流を深め、学生でしか経験することのできない海外インターンシップにする。

### 【インターン先】

#### \*アルビレックス新潟ミャンマー

アルビレックス新潟ミャンマーは、フットボールスクールをメインに活動し、本社のアルビレックス新潟シンガポールとはスクールの対象者や地域貢献活動において異なる。ヤンゴンにある聴覚障がい者の学校-メリーチャップマン校と協定を結んでおり、聴覚障がいを持つ生徒と当学校の卒業生を対象に無償でフットボールスクールを行っている。また、国際ナショナルスクールにおける活動や児童養護施設（アガペ、ドリームトレイン）への出張型スクールも行っており地域貢献活動に力を入れている。

### 【インターンシップ内容】

#### 1)フットボールスクール

\*メリーチャップマン校（水、木、土、日）

聴覚障がいをもつ生徒、また卒業生を対象とし、スクールは、メンズ、ウィメンズ、8歳以下、卒業生（トップチーム）の4つで構成されています。12月に、タイでの聴覚障がい者のフットサルアジア大会があり、ミャンマー代表として参加するメリーチャップマン校の生徒たちに身体の動かし方やボールを扱った基礎練習、チーム戦術など幅広く指導に取り組みました。



#### \*ダルウィッチインターナショナルスクール（火）

ヨーロッパ系、中国系、インド系と様々な国籍の生徒が在籍しており、スクールは英語で行いました。「スポーツを通して仲間を理解する」ことを重視し学年、国籍を越えてスポーツを通じた相互理解を促す環境作りに取り組みました。

#### \*アガペ児童養護施設（日）

ヤンゴンからタクシーで片道 2 時間程離れた場所にあるアガペ児童養護施設のスクールは、親のいない孤児を対象にしています。施設周辺には、貧困で悩む人々が住んでおり、藁葺の家にブタや鶏などの家畜を育てて生計を立てていました。施設には、校庭はなく田んぼのような場所でスクールを行い、ゴールは木の棒を 2 本立てて 1 本の横棒と結びつける質素なものでした。



貧困の生活の中施設の仲間と支え合って生きる彼らの姿に私は心を打たれ、過酷な環境下であっても多くの子供達がフットボールスクールに笑顔で参加し、一生懸命に取り組む姿を見てスポーツ、フットボールの持つ力を改めて感じることができました。

## 2) クラブマネジメント

#### \*スポンサー営業

スポンサー企業へ訪問し、フットボールスクールの支援をお願いしたり、スポンサーから商品を頂きスクール参加者に配布しました。フットサルコート運営する企業への訪問では、新しいフットサルコートの使用に関して長期契約を条件に割安での利用について話し合いました。長期契約での利用を可能にすることで、多くの現地人にフットボールを楽しんでもらう環境を提供し地域に貢献することに尽力しました。

#### 【インターンシップにおいて得られた成果】

今回のインターンシップにおいて、スクールでのコーチングスキルや地域貢献活動を運営するためのマネジメントスキルを身につけることができました。メリーチャップマン校のフットボールスクールでの手話、インターナショナルスクールでの英語を使った活動を通して自身の指導経験が深まったことに加えて、現地の人々のスポーツに対する情熱を感じ、スポーツが人々に与える影響の大きさを改めて実感することができました。特に、児童養護施設における活動では生徒たちの日常生活の一部を垣間みることができ、スポーツによる国際開発のあり方を実践的な視点から捉え直すきっかけとなりました。世界的に注目を浴びているスポーツ開発学において、現地の状況を目の当たりにすることで貧困解決におけるアプローチの限界とその課題について様々な角度から見つめ直し、自身の専攻であるスポーツ国際開発学を理論的かつ実践的立場で考え開発におけるスポーツの在り方、重要性を多面的に捉える貴重な経験とすることができました。